



平成十年に活動を始め、当初九十七人だった登録者数は、二百二十三人にまで増えました。

試合のある日は七十五人のスタッフが、入場ゲートでの案内や場内整理、試合後のごみ拾いまで、裏方の仕事を班ごとに分かれて行います。

スタッフは、十八歳から六十代までの幅広い顔ぶれ。「毎年少しずつ、ボランティアの運営範囲を広げていきます。継続して活動してくれる人が多いので、三年目の今期は、新しく加わる人の指導などもかなりスムーズになってきました」と、北海道フットボールクラブでボランティア事業を担当する佐藤照幸さん。

設立当初からスタッフとして活動

スポーツ コンサドーレ・ ボランティア・ スタッフ(CVS)

今年で設立十二年目という活動歴を持ち、会員は全部で五十一人。毎月二回の例会には、二十人ほどが集まり、「遊び」の練習などに励みます。

各メンバーが自宅に近い地域を受け持って、市内の児童会館や小学校を訪問し、けん玉やお手玉、こま回しなどの昔遊びを教えています。代表の鈴木絃子さんは「普段コンピュータゲームなどで遊んでいる子供



社会教育

伝承あそびボランティア
たけとんぼ



街の未来を担う子供たちのために
伝えたいもの、残したいものを
みんな持っているんだね

たちには、昔遊びがかえって『新しい』遊び。自分の手で道具を操って遊ぶ楽しさに気付くようです。また、他人の技術を認め合いながら練習する遊びが多いので、仲間同士の関係づくりに役立つかと思います」と話します。

取材の日は、新琴似光陽児童会館で、けん玉を指導中でした。鈴木さんが持参した特大のけん玉や、次々と披露される技に、子供たちからは歓声の連続。手を取って遊び方を教えてもらい、覚えた技を自慢し合いながら、夢中になって遊んでいました。

「二番の課題は技術の維持」と鈴木さん。今後は、さらに技術に磨きをかけながら、若い会員を増やし、遊びを伝えていきたいとのことでした。

まちづくり モエレ まちづくり委員会

東区の札苗地区からモエレ地区までを舞台に活動する、モエレまちづくり委員会。住民・企業・行政が連携して、議論を重ねながら環境改善を行う「グラウンドワーク」の実践を目指して平成八年に設立されました。

市民主体の街路緑化運動は、委員会発足に先駆けて平成三年から始め



られていました。現在は、札苗・東雁来・モエレ地区まで、花壇やプランターで飾られた約六キロのフラワロードが広がっています。「以前は、街の美化などは行政の仕事という意識がありましたが、今は、できることは自分たちでやっています」と事務局長の佐々木弘さん。

また、この街に育つ子供たちのために、平成五年から「燃えれ！わが街」と題したイベントを毎年開催。当初、運営は委員会の役員が主体でしたが、現在では、若い世代の住民が積極的に携わっているそうです。

今年で、街路緑化は十年の節目を迎えました。「個人や学校でも花を植えるようになって、こちらは軌道に乗ってきた感じです。今後は木を植えたいですね。何十年という長い期間をかけて森を育てたい」と佐々木さん。そのためには、地域に愛着を持った後継者づくりが、重要な課題です。



環境 スコップ倶楽部

平岡公園周辺の自然を守るための活動を行っており、結成は平成十年。平岡公園の造成に関して、住民が集まって市と話し合ったのが活動の始まりでした。

地域の身近な自然に触れる機会を増やそうと、子供たちが草木染めや魚捕りなどを楽しむ「長ぐつの日曜日」や、大人向けの自然観察「野遊び会」を開催しています。今までに開催したイベントに参加した人の数は、千六百にも上ります。

また、地域の航空写真を参考に、現地を歩いて自然分布を調査する、ピオトープマップ（環境地図）作りにも力を入れています。

代表の道家暁子さんは「この作業を通し、道路の造成などに関して行政と話をするときも、やみくもに木を残してと言うのではなく、実際の自然分布に基づいた価値判断で意見を言えるようになりまし」と話します。

また、空き地に植樹して森をつくる試みも進めています。その土地に合った自然林をつくるため、地域の樹木から種子を集めて苗木を育て、植樹しています。これまで、厚別と平岡の二カ所で実施しました。

道家さんは「平岡の自然を末永く守っていくために、もっと地域の理解と協力を求めていきたいと思っています」と話してくれました。

●ルポルタージュ

お祭りでも ごみの徹底分別を アピール！

豊平区・豊平地区町内会
連合会環境部

十年以上も前から、ごみ問題に取り組んでいる豊平地区町内会連合会環境部。八月二十七日の「とよひらふれあい祭り」にお邪魔して、その取り組みを見学してきました。



豊平地区のごみ問題にこの人ありと言われる中村博厚さん。今日は、燃やせるごみ、プラスチック類、びん・缶・ペットボトルの分別ごみ箱を用意しました。

午後4時、婦人部の方と打ち合わせ。会場では、イベントの一つとしてごみの分別クイズが行われました。



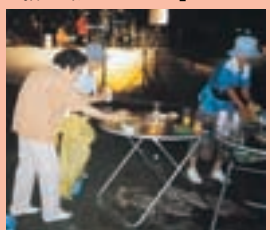
ごみ分別クイズの参加賞のエコノートと小脇に、「ジュースの缶は資源ごみだから、この箱ね」

会場の6カ所に用意したごみ袋は、あっという間にいっぱい。随時取り替えていきます。



午後6時半、好天のおかげもあり今日は相当な人数。1,000脚以上のいすが用意されていましたが、暗くなるころには満席です。

午後8時、お祭り終了。テーブルや地面に残されたごみを総出で拾います。「来年は灰皿を用意して、ポイ捨てを防がないとね」



最後に会場の隅に集められたごみ。「これほどの量になると、ごみステーションには出せません。分別したのは、区民にごみ出しマナーの向上を訴えるため」と中村さん。翌朝、事業ごみとして引き取りにきてもらいます。

午後9時、みんなでやれば、片づけは1時間ほどで終了。お疲れさまでした！

